



冷たい風が吹く中、心温まる応援バザーとなった

糸島から東北に元気を

買って、食べて、歌って応援

「東北の人たちのために義援金を」丸田池公園で3月27日、震災応援バザーが実行委員会主催のもと開催されました。

糸島に住む母親たちが「私たちにできることを何かやりたい」という思いのもとで同バザーが実現。バザーはもちろん、ワークショップやコンサートライブなどが行われ、約20万円の義援金が寄せられました。

会場にはたくさんの方々が訪れ、子どもたちが募金する姿が多く見られました。

もしもの災害から地域を守る

平成23年度糸島市消防団入退団式

4月3日、前原小学校体育館で糸島市消防団入退団式を開催し、退団者への感謝状授与や入団者への辞令交付などを行いました。

市長は、「東日本大震災を受け、糸島市にも課題が突き付けられた。今後も地域の隅々までを知っている消防団を頼りにしていきます」とあいさつしました。

式には、各分団長や班長をはじめ、退団者、入団者など約200人が出席。最後は、恒例のまとい演技で締めくくりました。



今年の入団者は89人。若い力が地域の支えとなる

歩く、見る、食す、春を堪能

ウォーキングツアー in 二丈

「さくら・桜&酒蔵ウォーキングツアー」が4月2日、糸島市観光協会二丈支所主催のもと行われました。

ツアーは、全行程7km。筑前深江駅を出発し、曲り田の里や松国の大山桜、白糸酒蔵、まむし温泉などを歩いて巡りました。

参加者の中には、北九州や大野城市など遠方から訪れている人もおり、子どもから92歳のお年寄りまで老若男女を問わず、春の訪れを堪能しました。



健脚自慢の参加者たち。桜や菜の花など春を満喫した



市民だけでなく、企業や研究者も集まった

水の循環を取り戻そう

雨水ネットワーク九州 in 糸島

水の貴重さや美しさ、危うさなどを学ぶ雨水ネットワーク九州が3月26日から27日にかけて、健康福祉センターふれあいで開催されました。

会場では、福岡大学工学部水圏・流域システム研究室の渡辺亮一准教授の講演が行われ、渡辺准教授は「自然水の有効な利活用は防災上でも重要な鍵である」と訴えました。

朝市プロムナードでは水環境関係団体の展示なども行われ、参加者たちは足を止めて熱心に見入っていました。

ITOSHIMA INCIDENTS

強い余震を警戒しながらの捜索

糸島市消防本部救助隊が帰還

3月14日に東日本大震災の緊急救助隊に参加した福岡県隊・糸島市消防本部の4隊員が帰還。市長に報告を行いました。

活動したのは、宮城県亘理郡山元町。まだ多くの行方不明者がおり、福岡県隊は、それぞれに分担して支援を行い、糸島隊の4人は主に遺体捜索を行いました。

消防隊の本来の目的は救助で、生存の可能性を求めて活動しますが、今回は結果的には被災地での遺体捜索が主な活動となりました。



被災地での活動や状況について市長に報告する隊員たち

山元町は、10mを超える津波に襲われ、海岸から約6kmの地点には、根こそぎ引き抜かれた海岸の松の太木もありました。現地状況は把握しているつもりでしたが、現地の惨状に慄然としたそうです。

頭までつかかる深いぬかるみと瓦礫。悪条件の中で、時折発生する強い余震に津波を意識し、避難態勢を確保しながらの活動でした。

山元町は、定期的な避難訓練を行っていた地域。糸島市でも同様の災害が起こる可能性はあり、原発事故を含め、防災計画の見直しはもちろん、市民が危機感を持ち自助意識を高めること、また、地域内の連携の重要性をあらためて感じさせられたとのことでした。



現地での糸島市消防本部の隊員たちの緊急救助活動の様子